

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991600016		
法人名	社会福祉法人関記念栃の木会		
事業所名	認知症高齢者グループホームいしばし		
所在地	栃木県下野市上古山569-1		
自己評価作成日	令和5年7月25日	評価結果市町村受理日	令和5年10月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和5年8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活が安心安全に過ごして頂くよう、個々の個性や習慣を加味してトラブルや危険回避できるよう先を想定した介護に努めている。又、接遇はすべての事に反映されることから毎月目標を設定してご利用者中心の生活支援に努めている。限られた生活空間の中、刺激を少しでも多く得られるよう毎月、月担当を決めご利用者、職員で行事企画を行っている。ご家族様には日々の様子を知っていただきたく「毎日の生活のひとこま」や「いしばし通信」を送付して日々の生活状態をお知らせしている。遠方で面会の機会が少なくても安心していただけるよう努めている。又、近隣に同法人の施設があり、色々な場面で相談、支援を受けることができている。ご利用者が住み替えが必要な状態に陥っても連携して対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、市北部に位置し、周辺には住宅や畑が広がり閑静で落ち着いて暮らせる環境にある。近隣にある同法人のデイサービスセンターや特別養護老人ホームとは、日常の事務的な支援や行事での交流の他、災害時の協力、重度化した際の住み替えの支援等、連携体制を構築している。地域との付き合いも良好であり、近隣住民から花や野菜の差し入れがあるなど日常的に交流している。地元消防団の協力を得て避難訓練を実施するなど、利用者が地域の中で安心して生活できる環境を整えている。利用者家族には、「毎日の生活の中のひとこま」や「いしばし通信」を月ごとに送付し、利用者の生活状況を知ってもらい、家族の安心にも繋げている。事業所内は、共用空間、居室とも広くゆとりがあり、天窓から自然光が差し込むリビング兼食堂は、明るくあたたかみのある空間である。温湿度も適切に管理し、利用者が心地よく過ごせる環境に配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の3つの理念とグループホームの理念を事務所内に掲示して毎朝始業時に唱和を行い新たな気持ちでご利用者と向き合えるよう心掛けている。	利用者や地域の人への信頼、職員の働きがい等を謳った法人理念をもとに、職員の意見をふまえて作成した事業所理念を毎日唱和し、意識づけをしている。日々のケアのなかで理念を振り返る機会をもつよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して広報誌や回覧板を通し地域の情報をご利用者と共有している。近々はコロナ禍の為学校や地域のイベントに出かける機会がなく大変残念に思う。個々のなじみの理髪店、美容院にはお連れしている。又季節の花や野菜等近所の方より提供を受けている。	近所の方が花や野菜を届けてくれるなど、年間を通して交流している。コロナ禍以前は、小学校の田植えの見学や運動会への参加、ボランティアの受け入れなど、交流の機会を設けていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今は実施されていないが施設見学や認知症の実践研修等受け入れしている。電話等で相談があれば対応アドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為会議は書面にて関係者に利用者の状況やサービスの実際、取り組みについて報告させていただいている。質問や提案など今年度はほとんど無かった。	自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加のもと、現在は書面開催としている。利用者の状況や行事、活動について、書面で報告している。	双方向的な会議となるよう、書面での報告のみでなく、参加者からの意見を吸い上げる工夫や、時には警察、消防関係者等の参加を働きかける等、多方面から理解と支援を得られるような取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の状況の報告や通知について確認させていただいたり必要時はマスクや手袋などの物資の支援等受けていた。	運営推進会議に市担当課長の参加を得て、事業所の実情を伝えている。介護申請や各種補助申請等、困った時や疑問点が生じた時は気軽に電話で相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の及ぼす影響や具体的な事例や行為を確認しながら適切なケアができるように努めている。玄関の施錠についてはご家族の意見を聞き、ご利用者の安全第一と考え適時ロックをかけている。	身体拘束等要因アセスメント評価表により、身体拘束のないケアについて、家族に説明している。内部研修により、自己のケアの振り返りを行ったり、職員同士でも利用者が不快な思いをしないように注意しあうなど、適切なケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を立ち上げ施設内のグレーゾーンをなくすように年に1回自己評価を行っている。		

認知症高齢者グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解できるように機会があれば外部研修に参加するようにしている。現在は利用する人は居ないが必要であれば制度を活用し支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容については納得いただけるまで説明、確認していただいている。解約時も同様で内容、理由が納得していただけるよう説明、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にアンケート用紙を設置して自由に意見を頂けるように配慮している。又定期的なケアプラン作成時や見直しの時ご家族の意見や本人の意向を確認させていただきサービスに反映させている。	面会時に玄関先で顔を合わせる際や、通院支援の際に、家族の話を聞いている。コロナ禍以前は、クリスマス会でアンケート用紙を配布するなど、家族の意見を取り入れる取り組みを行った。利用者とは入浴支援時等、1対1の場面でゆっくりと思いを聞き取るよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から気づいたことを自由に言えるような雰囲気づくりを行い細かな意見を拾い上げる様に努めている。必要に応じて職員会議で検討したり連絡ノートを活用して全員に周知するようにしている。	管理者は、業務管理シートによる面談のほか、日常的にも、職員と気兼ねなく話しやすい関係づくりに努めている。職員は日々の申し送り時や職員会議の場で気づきや提案を伝え、出された意見を皆で検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な契約更新時には、個々の契約内容や意思の確認を行い契約を交わしている。又、年に2回仕事へのやりがいや取り組み姿勢など自己評価をする機会を持ち業務管理シートを提出し面接を行い働き方を見直す機会となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会があれば外部研修に参加を促し、スキルアップにつなげている。研修会の内容は復命書の回覧で参加しなかった職員への波及を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のケアマネジャー協会やグループホーム協会、包括支援センター、法人内の運営会議などで情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

認知症高齢者グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み相談を受けてから定期的に状況の確認をさせていただき把握している。入居前面接を通じご家族ご本人のお話を伺い準備させていただいている。担当ケアマネジャーからの情報も参考にさせていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居案内見学の時点で施設の概要特徴など丁寧に説明させていただき、本人の性格や相性など見極めながら安心して過ごせるような環境をご家族と共に準備させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接聞き取り調査にて現状と今後の支援の方向性について確認し、適切な支援が出来るように努めている。その中で施設で出来る事、出来ない事を丁寧に説明伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が互いに協力して過ごして頂けるように関係作りを支援している。例えば個々が出来る事をお手伝いとして生かして頂く。又は職員が手薄の時でもご利用者同士で危険なことにならない様に声を掛けて頂いたり、ゲームや合唱時リードして進めて頂くこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「いしばし通信」や「生活のひとこま」にてご利用者の様子を知らせている。状態に変化がある時は随時連絡させていただき、ご家族の意向を確認している。通院や理髪など外出の機会がある時はできるだけご家族のご協力を頂くよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	短歌を趣味としているご利用者には郵送の支援を行っている。作品の発表や展覧会がある場合は見学にお連れしたり評価を共に喜んだりしている。なじみの美容院への外出支援を行っている。	短歌を趣味とする利用者には、作品の郵送や文化祭での作品発表の機会を楽しめるように支援している。利用者の携帯電話の充電状況に気を配り、電話での連絡を取り持つなど、馴染みの人との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のリハビリやレクリエーションを通して個々の特性を考慮して実践している。合唱では合わなくても気にしない。ゲームは間違えたらやり直す。歩行練習は危険のないように譲り合うなど配慮している。		

認知症高齢者グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先には情報提供を行い、住み替え後ストレスが少なく過ごせるよう支援している。機会があれば面会に伺ったり、ご家族から相談があれば支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で態度や表情から思いをくみ取るようにしている。又、毎日のリハビリや入浴時に一人一人に声を掛けたり、最近の状態を伺うようにしている。表現できない場合は生活歴や家族からの情報などを参考している。	リハビリ時に質問したり、クイズ形式でたずねたりと、声掛けを工夫しながら、利用者の意向を把握するよう努めている。日々の会話の積み重ねから信頼関係を構築することを大切にしており、言葉での意思疎通が難しい方にも表情、しぐさから意向を読み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やサービス事業者より情報提供を受けたり、生活歴や暮らし方など事前に聞き取りを行い理解するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録、温度板、ケアプラン実施記録等を参考に日常の過ごし方を把握している。入浴時には身体状況を確認、情報を共有している。個々が出来ない部分の支援を心掛け、無理強いせず個々の持つ能力を優先している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャー、居室担当者それぞれの意見を集約してアセスメントを行い少しでも良好な状態になる様取り組んでいる。ご家族やご本人の意向も確認しながら定期的にモニタリングを行いケアプランの見直しを行っている。	居室担当者及び家族の意見を踏まえながら、ケアマネジャーが中心となって作成している。定期的な見直しのほか、入院等の状況変化に合わせて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に経過記録を記入し、特に変化があり統一介護が必要な時は連絡ノートに記入、申し送りを行い情報を共有している。必要に応じてケアプラン、介護度の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況により通院、薬取り、訪問診療の手配、対応など要望に応じて行っている。気分転換のためのドライブなど支援している。突発的なことも随時対応している。		

認知症高齢者グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方から生花、野菜などの提供があり交流を継続している。行きつけの美容院では本人を良く知っているため付き添いが無くても対応して下さる。通院時など知り合いとお会いすることもあるようだ。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を支援している。通院が困難な方は往診や訪問診療を依頼する。又受診の際ご家族様が伝えにくい細かな情報は事前にFAXなどで伝え、適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医の受診は、家族の付き添いを基本としているが、緊急時には職員が対応している。受診時にはFAX等で本人の様子や変化等、情報を提供するとともに、家族からは受診結果の報告を受け、適切に情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護師は在中していないので法人内の看護師に相談アドバイスを受け、次につないでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は定期的に状態を確認しながら退院時の受け入れに万全を期するようにしている。必要であれば退院時のカンファレンスに参加することもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に施設で出来ることと出来ないことを説明させていただき、重症化傾向にある時にはご家族と今後の方向性について話し合い検討している。ご本人やご家族の意向を考慮しながら他の施設への住み替えを検討支援している。	事業所での入浴が難しくなるタイミングを住み替えの目安としていることを、利用開始時に説明している。本人、家族の意向を踏まえながら同法人が運営する特別養護老人ホームへの住み替えを検討するなど、スムーズな移行支援ができるよう、法人内の連携に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で緊急時の対応について学んでいる。昨年は研修の機会がなかった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	あらゆる場面を想定した避難訓練を毎月行っている。近隣の協力委員を含めた通報訓練や消防への通報訓練、雨水時の避難行動の確認など行っている。	地震、水害等、様々な場面や時間帯を想定した訓練を毎月実施している他、通報、避難に関するビデオを活用して災害時の行動を確認している。地元の消防団が利用者の避難誘導を支援してくれるなど、地域の協力体制も整っている。非常食、備品の見直し、入れ替えも年1回行っている。	

認知症高齢者グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症を理解すると共に個々の性格、個性を尊重して敬意を持って対応するように心がけている。又、部屋が丸見えになることがいやなご利用者には入口にカーテンをするなど配慮している。	入室時、トイレ誘導時等は、声掛けによる支援を大切にしている。居室の入口にカーテンをして中が見えないように配慮するなど、利用者の要望に合わせて対応している。	トイレ誘導時には目立たずさりげない声掛けを行うなど、羞恥心に配慮した対応とともに、個人ファイル等についても利用者の目の届かない場所で管理するなど、よりプライバシーに配慮した対応を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の話を否定せず傾聴に努めている。会話の中から真意を汲み取り、迷っている時はいくつか提案させていただき選んでいただくよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の心身の状態に応じてリハビリやレクリエーションへの参加を促している。いくつかの過ごし方を提案させていただき、その日のメンバーや気分でも楽しく過ごせるように内容を変えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備をする際はご自分で準備ができる方は自分でして頂き、出来ない方は一緒に衣類を選んでいただくようにしている。スキンケア用品を持参している方で一人では困難な方には支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や誕生会などにはリクエストメニューや特別メニューを提供している。テーブル拭きや食器拭きなど出来る事はお願いしている。	朝と夕の食材は業者から調達し、昼食分は職員が材料を買い出し、調理を行っている。利用者には能力に応じてできることを手伝ってもらっている。近所の方からいただいた野菜を使ったり、手作りおやつを取り入れるなど、出来立てをおいしく食べられることを大切にしながら食事を楽しめる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に合わせて食事形態や量を変えている。毎日の摂取量を確認しながら健康管理に努めている。個々の嗜好も大切にしている。リハビリの途中や入浴後に麦茶の提供を行い適切な水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じ声掛け見守り案内を行いながら支援している。リハビリでは健口体操やパタカラ体操、を取り入れ口腔の機能低下予防に努めている。		

認知症高齢者グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンシートから個々の排泄状況を把握している。排泄行為がスムーズに行えるよう声掛け案内、羞恥心に配慮しながら支援している。	トイレでの排泄を基本としており、利用者の仕草を観察し、声掛けにより誘導している。夜間はパッドやポータブルトイレを活用するなど、個別に柔軟に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日乳酸菌や牛乳を提供している。個別に乳酸菌飲料の摂取や服薬調整、運動、水分補給などを行い出来るだけ自然排便を促すように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴できるようにしている入浴日や時間の変更は個々の都合に合わせて対応している。行事等で入浴時間の変更がある時は事前にお知らせしてそれぞれの都合に合わせてるようにしている。	週3回、利用者自身のペースで入浴できるよう支援している。職員は利用者の身体状況を確認しながら、1対1でゆっくりと話をしながらくつろげるよう、介助に努めている。菖蒲湯、バラ湯、ゆず湯等、季節を楽しめる工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイルに合わせて環境を整え自由に過ごして頂くように配慮している。食後長い昼寝にならないよう適時声掛け午後のレクリエーションに参加を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表にて内容、効果、副作用などを確認している。誤薬防止の為準備する人と与薬する人は人を変えて薬の確認をしている。状態の変化は申し送り報告、必要であれば家族や主治医に相談、指示を仰ぐこともある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	短歌や書道は施設内の掲示板で発表の場を設けている。又、投稿などは郵送を支援している。日常生活で出来る事をお手伝いしていただいている。又、カラオケや日光浴などで気分転換を図っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出の機会は少ない。感染症対策を取りながら通院、理髪など支援している。春はお花見ドライブ、秋は紅葉ドライブなど実施している。	少人数でのドライブを企画し、桜や菜の花などの花見を楽しみ、写真に収めるようにしている。気候の良い時期にはテラスに出て外気浴やラジオ体操をするなど、戸外に出る機会を作っている。	

認知症高齢者グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度を管理している方は1名。ほとんどの方は自己管理が難しい為預かり金として1万円程度の中から職員と共に管理している。年2回、ご家族様に預かり金収支報告を行い確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時電話の取次ぎをしている。携帯電話の取り扱いが不十分な時は確認、支援している。切手の購入、郵送など支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節感のある飾りやお花を生け楽しんでいただいている。年間を通し落ち着いた環境を提供している。	玄関フロアや食堂等には絵画や置物、利用者が制作した折り紙や書を飾り、季節感を感じさせている。食堂兼リビングは広くゆとりがあり、天窓から自然光が差し込み、あたたかみのある空間となっている。床暖房や適切な温湿度管理により、利用者にとって心地良い環境を提供できるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は比較的広々しており、それぞれが目的に合った過ごし方ができるように色々なアイテムを準備して必要に応じ提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個々が慣れ親しんだ使いやすいものを準備していただきご家族とご本人が相談してレイアウトをして頂いている。毎日モップ拭き掃除を行い清潔な空間を提供している。	居室は広くゆとりがあり、職員が毎朝清掃し清潔を保っている。家族の協力のもと、テレビ、冷蔵庫、仏壇等、慣れ親しんだものを自由に持ち込んでもらい、利用者がその人らしく、居心地よく安心して過ごせる居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の確認ができるように個々の見やすい高さに表札を出している。食卓にもネームを貼り、席に着けるようにしている。トイレの案内板を付け自立した排泄を促し、タンスにはラベルを貼り自己管理を促している。		